

## 5. 要因分析の結果

ここでは、「 3. 高齢者の社会参加等と属性に関する分析」で示した方法に関する結果について示した。

### (1) 高齢者の社会参加等の要因分析

高齢者の社会参加等に関する被説明変数はカテゴリカルデータであるので、ロジスティック回帰分析により要因分析を行った。分析は、まず、全サンプルを対象として行い、全般的な傾向を確認したうえで、4つのグループ(1.健良・経良、2.健良・経悪、3.健悪・経量、4.健悪・経悪)別の分析も行い、各グループの特徴を明らかにした。

#### 【結果の見方】

分析結果は、分析した被説明変数ごとに、以下の一覧表に示した。

<被説明変数> 頼れる人の有無

0=頼れる人がいない / 1=頼れる人がいる

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
Q1 性別 (男)	1.191	0.000	3.291	1.722	6.288
Q1 婚姻状況 (未婚)	-1.203	0.012	0.300	0.117	0.768
Q25_4 最終学歴 (新制短大等)	-1.134	0.011	0.322	0.134	0.772
Q29 世帯構成 (独居)	-2.033	0.000	0.131	0.066	0.259
定数	2.688	0.000	14.699		

偏回帰係数 B :

偏回帰係数の符号から、被説明変数に対する関係の正負がわかる。

(例) 「Q1 性別 (男)」

偏回帰係数の値が 1.191 とプラスであるため、頼れる人がいる傾向に影響があると読み取ることができる。マイナス符号がついている、「Q1 婚姻状況(未婚)」、「Q25\_4 最終学歴(新制短大等)」、「Q29 世帯構成(独居)」は、頼れる人がいない傾向に影響があると読みとることができる。

Exp(B)

オッズ比を表している。1からの距離(1から0までの距離と1よりも大きい場合の距離の両方を指している)が遠いほど、被説明変数に対する影響度が、大きいと読み取ることができる。なお、“オッズ比>1”の場合は被説明変数に対して正の影響、“オッズ比<1”の場合は被説明変数に対して負の影響があることになる。

(例) 「Q29 世帯構成(独居)」

Exp(B)つまりオッズ比は、0.131である。上表にある4つの変数のうち、偏回帰係数がマイナスである「Q1 婚姻状況(未婚)」、「Q25\_4 最終学歴(新制短大等)」、「Q29 世帯構成(独居)」の中で1からの距離が最も遠いため、頼れる人がいない傾

向に対して、3つの変数の中で最も影響が強い変数であると読み取ることができる。

### 1) 分析1 - :就業の状況

全サンプルに対する就業状況の要因分析結果をみると、「性別：男」でオッズ比が高く、男性のほうが就業している傾向にある。また、暮らし向きで「大変ゆとりがある」のオッズ比は高く、仕事の有無と暮らし向きには関連が認められる。

一方、「年齢：後期高齢者」ではオッズ比が低く、高齢になるにつれて就業する人が少なくなっていることがわかる。また、「要介護認定：受けている」でも就業が少なく、本人の自立が就業の要件になっていることがうかがえる。

就業の状況(仕事あり=1、仕事なし=0)

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.466	0.000	0.231	0.212	0.252
性別：男	0.919	0.000	2.506	2.331	2.695
暮らし向き：ややゆとりがある	0.594	0.000	1.812	1.543	2.127
：大変ゆとりがある	1.706	0.000	5.507	3.070	9.879
家族類型：独居	-0.496	0.000	0.609	0.540	0.686
：夫婦のみ	-0.388	0.000	0.678	0.629	0.731
要介護認定：受けている	-2.285	0.000	0.102	0.071	0.146
家族の介護：主たる担い手	-0.353	0.000	0.702	0.586	0.842
喫煙本数：11～20本	0.206	0.002	1.228	1.078	1.399
：21～30本	0.549	0.000	1.731	1.407	2.129
：31本以上	0.422	0.013	1.526	1.092	2.132
市郡：郡部	0.182	0.000	1.200	1.091	1.319
地域ブロック：関東	0.344	0.000	1.411	1.263	1.575
：北陸	0.187	0.009	1.205	1.047	1.387
：東海	0.311	0.000	1.365	1.223	1.523
：中国	0.246	0.000	1.279	1.121	1.460
：四国	0.327	0.000	1.387	1.178	1.632
：南九州	0.180	0.008	1.198	1.048	1.369
定数	-0.789	0.000	0.454		

4つのグループ別の分析をみると、何れのグループでも「年齢：後期高齢者」はオッズ比が小さく、すなわち就業が少ないことがわかる。また、「要介護認定：あり」でも同様であり、年齢や自立の状況が就業に影響を与えている。一方、「性別：男」は何れのグループでもオッズ比が高く、就業に関しては男性が優位にあることがわかる。

暮らし向きについてみると、「1.健良・経良」、「3.健悪・経良」グループでは、「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」でオッズ比が高い。しかし、「2.健良・経悪」、「4.健悪・経悪」グループでは、暮らし向きと就業状況に有意な関係は認められない。すなわち、「2.健良・経悪」、「4.健悪・経悪」グループでは、仕事をしていても必ずしも暮らし向きの向上につながっていないといえる。



### 1.健良・経良

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.499	0.000	0.223	0.200	0.250
性別：男	0.968	0.000	2.633	2.410	2.876
暮らし向き：ややゆとりがある	0.623	0.000	1.865	1.551	2.243
：大変ゆとりがある	1.542	0.000	4.672	2.494	8.752
家族類型：独居	-0.295	0.000	0.745	0.636	0.872
：夫婦のみ	-0.441	0.000	0.644	0.588	0.704
要介護認定：受けている	-2.344	0.000	0.096	0.049	0.190
家族の介護：主たる担い手	-0.480	0.000	0.619	0.495	0.773
ストレス：有	0.203	0.000	1.225	1.120	1.341
喫煙本数：11～20本	0.182	0.023	1.199	1.025	1.403
：21～30本	0.588	0.000	1.801	1.391	2.332
：31本以上	0.476	0.022	1.610	1.071	2.418
市郡：郡部	0.192	0.001	1.212	1.077	1.365
地域ブロック：関東	0.301	0.000	1.351	1.186	1.539
：東海	0.305	0.000	1.357	1.195	1.542
：中国	0.270	0.001	1.311	1.115	1.541
：四国	0.387	0.000	1.473	1.197	1.813
：南九州	0.299	0.000	1.349	1.143	1.592
定数	-0.751	0.000	0.472		

### 2.健良・経悪

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.289	0.000	0.276	0.214	0.355
性別：男	0.755	0.000	2.127	1.707	2.649
家族類型：独居	-0.566	0.000	0.568	0.434	0.743
子どもあり	0.365	0.008	1.441	1.099	1.891
要介護認定：受けている	-1.682	0.005	0.186	0.057	0.604
ストレス：有	0.237	0.033	1.268	1.020	1.576
定数	-0.891	0.000	0.410		

### 3.健悪・経良

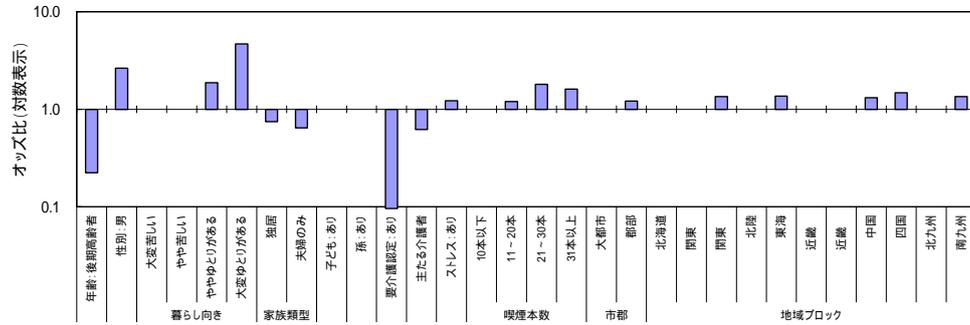
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.359	0.000	0.257	0.211	0.313
性別：男	0.994	0.000	2.703	2.267	3.223
暮らし向き：ややゆとりがある	0.444	0.023	1.559	1.065	2.283
：大変ゆとりがある	2.141	0.006	8.505	1.839	39.333
家族類型：夫婦のみ	-0.386	0.000	0.680	0.566	0.816
要介護認定：受けている	-2.000	0.000	0.135	0.083	0.220
喫煙本数：21～30本	0.785	0.001	2.193	1.367	3.517
地域ブロック：関東	0.380	0.005	1.462	1.122	1.904
定数	-1.040	0.000	0.354		

### 4.健悪・経悪

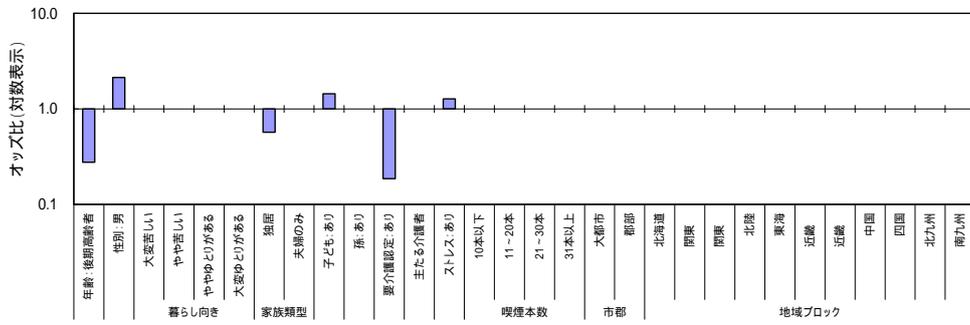
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-0.866	0.000	0.421	0.281	0.629
性別：男	0.765	0.000	2.149	1.486	3.109
家族類型：独居	-0.563	0.011	0.569	0.368	0.881
要介護認定：受けている	-2.740	0.000	0.065	0.016	0.266
定数	-1.417	0.000	0.242		

被説明変数:就業の状況(仕事あり=1、仕事なし=0)

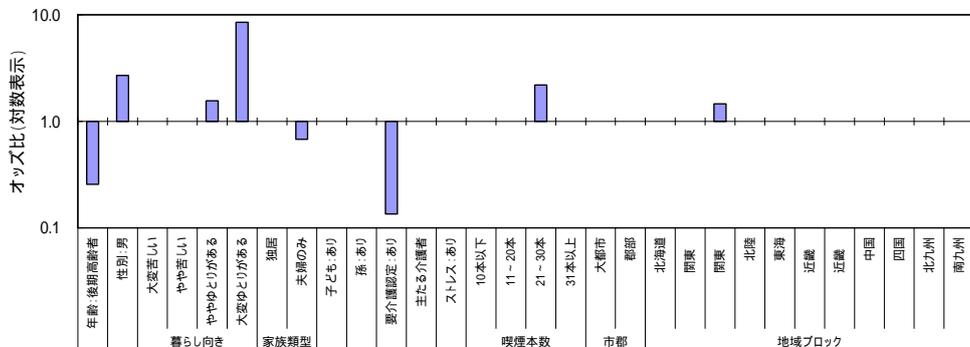
1.健全・経良



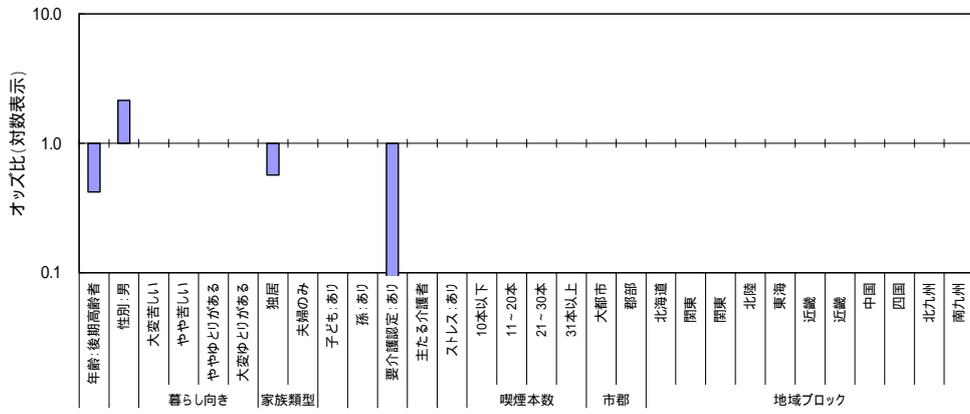
2.健全・裕福



3.健康・裕福



4.健康・裕福



## 2) 分析1 - : 家族の介護の状況

全サンプルに対する家族の介護の状況（同居家族の介護を担っている高齢者の状況）に関する要因分析の結果をみると、「性別：男」でオッズ比が低く、家族の介護は女性の手に委ねられる傾向にあることがわかる。また、「要介護認定：受けている」のオッズ比はほぼ0となっており、自身が自立していないと家族の介護に従事することは困難であるといえる。

就業状況をみると、「仕事あり」でオッズ比が低く、反対に「就業希望あり」でオッズ比が高くなっている。これは、介護に従事することで就業は困難になるものの、就業意欲は高いことを物語っている。

また、「ストレス：有」のオッズ比が高く、介護に従事することがストレス要因になっていることがうかがえる。

家族の介護(主たる担い手=1、主たる担い手ではない=0)

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
性別：男	-0.465	0.000	0.628	0.533	0.741
家族類型：独居	-18.924	0.981	0.000	0.000	.
：夫婦のみ	-1.092	0.000	0.335	0.276	0.408
子どもあり	-0.730	0.000	0.482	0.400	0.581
孫あり	-0.911	0.000	0.402	0.294	0.551
就業状況：仕事あり	-0.298	0.001	0.742	0.619	0.891
：就業希望あり	0.351	0.003	1.420	1.129	1.786
要介護認定：受けている	-18.246	0.987	0.000	0.000	.
ストレス：有	0.839	0.000	2.314	1.974	2.712
市郡：大都市	-0.342	0.006	0.710	0.556	0.908
地域ブロック：北陸	0.351	0.015	1.421	1.070	1.886
：東海	0.406	0.000	1.501	1.198	1.881
：近畿	0.356	0.041	1.428	1.015	2.009
：中国	0.376	0.006	1.457	1.111	1.910
：四国	0.594	0.000	1.811	1.320	2.484
定数	-2.554	0.000	0.078		

4つのグループ別の分析をみると、何れのグループでも「家族類型：独居」のオッズ比が0であるが、これは国民生活基礎調査のデータの制約上、同居している家族の介護の状況しか捉えることができないためである。すなわち、独居の場合は介護対象となる家族がいないのでオッズ比が0となった。しかし、実際は独居の場合でも、別居している家族や家族以外の人を介護するケースはあり得るので、解釈にあたっては注意が必要である。

また、「要介護認定：受けている」のオッズ比もほぼ0であるが、「2.健良・経悪」グループでは有意とはなっておらず、自身が要介護者であっても、健康であれば、経済状況が悪い場合は、介護に従事しているケースがあることを示唆している。

また、「1.健良・経良」、「3.健悪・経良」グループでは、「子ども：あり」、「孫：あり」のオッズ比が低くなっているのが特徴的である。

### 1.健良・経良

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
性別：男	-0.430	0.000	0.651	0.528	0.802
家族類型：独居	-19.018	0.987	0.000	0.000	.
：夫婦のみ	-1.398	0.000	0.247	0.192	0.319
子どもあり	-0.796	0.000	0.451	0.359	0.567
孫あり	-0.980	0.000	0.375	0.253	0.558
就業状況：仕事あり	-0.391	0.001	0.676	0.539	0.848
：就業希望あり	0.385	0.012	1.469	1.089	1.982
要介護認定：受けている	-18.257	0.993	0.000	0.000	.
ストレス：有	0.985	0.000	2.677	2.198	3.261
喫煙本数：10本以下	1.080	0.006	2.945	1.361	6.374
市郡：大都市	-0.387	0.016	0.679	0.496	0.930
地域ブロック：北陸	0.544	0.001	1.722	1.234	2.404
：東海	0.444	0.002	1.559	1.177	2.065
：近畿	0.581	0.006	1.788	1.182	2.704
：中国	0.651	0.000	1.918	1.375	2.674
：四国	0.811	0.000	2.250	1.486	3.408
定数	-2.561	0.000	0.077		

### 2.健良・経悪

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
性別：男	-0.557	0.038	0.573	0.338	0.971
家族類型：独居	-18.380	0.991	0.000	0.000	.
ストレス：有	0.847	0.000	2.332	1.452	3.746
地域ブロック：関東	-1.852	0.068	0.157	0.022	1.143
定数	-3.012	0.000	0.049		

### 3.健悪・経良

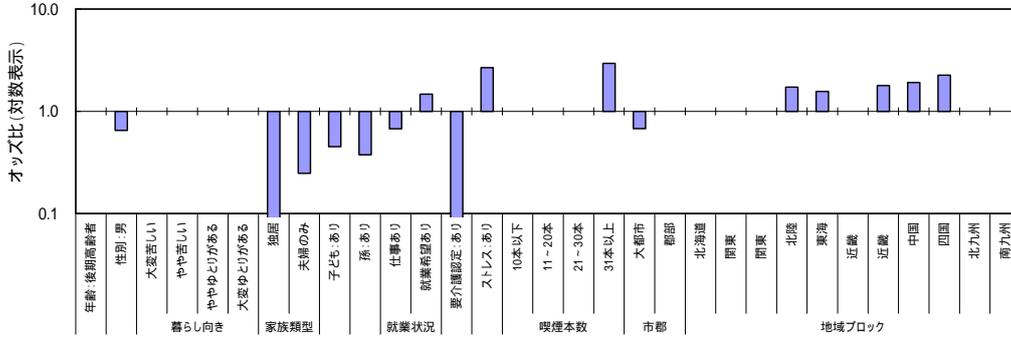
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
性別：男	-0.705	0.000	0.494	0.348	0.701
家族類型：独居	-18.828	0.993	0.000	0.000	.
：夫婦のみ	-0.709	0.001	0.492	0.325	0.744
子どもあり	-0.897	0.000	0.408	0.268	0.620
孫あり	-0.752	0.016	0.471	0.256	0.867
要介護認定：受けている	-18.207	0.991	0.000	0.000	.
ストレス：有	0.506	0.015	1.659	1.106	2.490
地域ブロック：東海	0.528	0.017	1.696	1.098	2.621
：四国	0.760	0.019	2.137	1.135	4.024
定数	-2.360	0.000	0.094		

### 4.健悪・経悪

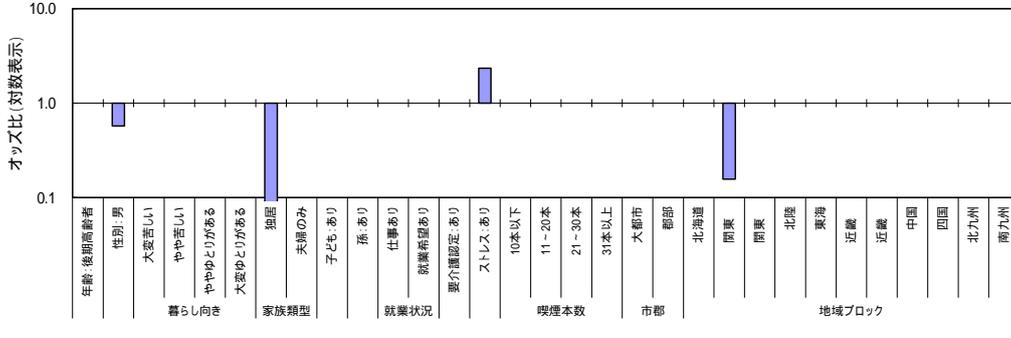
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
家族類型：独居	-17.997	0.993	0.000	0.000	.
要介護認定：受けている	-17.697	0.995	0.000	0.000	.
定数	-2.913	0.000	0.054		

被説明変数：家族の介護(主たる担い手=1、主たる担い手ではない=0)

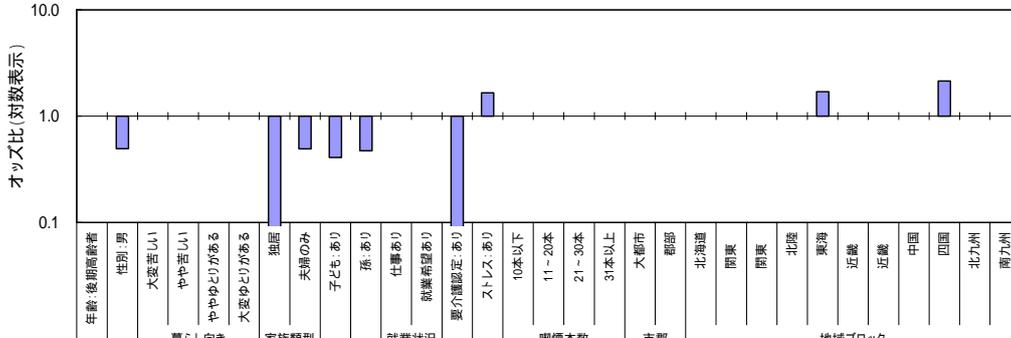
1.健良・経良



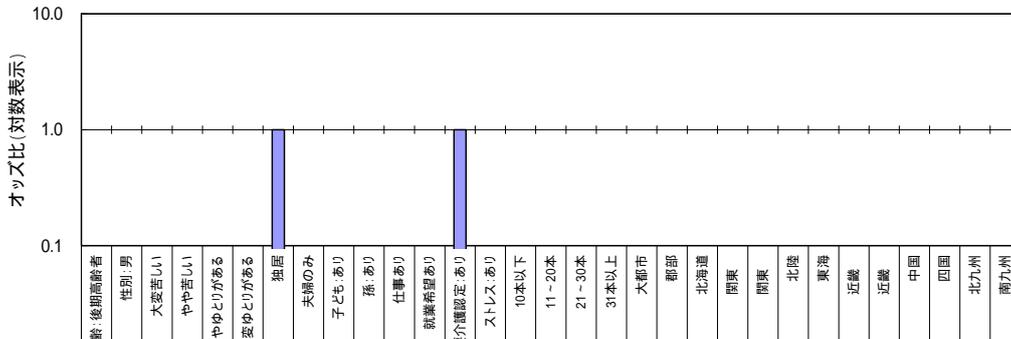
2.健良・総額



3.健弱・総良



4.健弱・総弱



### 3) 分析1 - : 社会保険料の支払い状況

全サンプルに対する社会保険料の支払い状況の要因分析結果をみると、「性別：男」のオッズ比が高い。また「就業状況：仕事あり」のオッズ比も高い。しかし、専業主婦である女性の社会保険料を夫が負担している場合も想定でき、解釈には注意が必要である（「国民生活基礎調査」所得票では、専業主婦の社会保険料は夫の欄にまとめて記載されている。そのため、分析には限界があることに留意）。なお、「家族類型：独居」では自分で支払わざるを得ないので、オッズ比はかなり高い。

また、「年齢：後期高齢者」のオッズ比も高く、高齢になるほど社会保険料の支払い状況がよくなっている。

一方、暮らし向きが「大変苦しい」場合は、オッズ比が低く、家計の状況が社会保険料の支払い状況に影響していることがわかる。

社会保険料の支払い状況(あり=1、なし=0)

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.374	0.000	1.454	1.328	1.592
性別：男	1.799	0.000	6.047	5.442	6.719
暮らし向き：大変苦しい	-0.326	0.000	0.722	0.658	0.791
家族類型：独居	1.382	0.000	3.983	3.404	4.661
：夫婦のみ	0.324	0.000	1.382	1.260	1.516
孫あり	-0.363	0.000	0.695	0.611	0.791
就業状況：仕事あり	0.402	0.000	1.495	1.356	1.648
家族の介護：主たる担い手	0.251	0.013	1.285	1.054	1.567
ストレス：有	0.083	0.045	1.087	1.002	1.179
喫煙本数：10本以下	-0.386	0.001	0.680	0.545	0.849
：11～20本	-0.338	0.000	0.713	0.590	0.863
：21～30本	-0.416	0.007	0.659	0.486	0.894
地域ブロック：関東	-0.170	0.011	0.844	0.741	0.961
：近畿	-0.230	0.015	0.794	0.660	0.957
：中国	0.174	0.029	1.190	1.018	1.391
：南九州	0.245	0.003	1.278	1.090	1.498
定数	0.469	0.000	1.598		

4つのグループ別の分析をみると、何れのグループでも、「年齢：後期高齢者」、「性別：男」、「家族類型：独居」でオッズ比が高く、また、「暮らし向き：大変苦しい」でオッズ比が低くなっており、グループによる相異は顕著ではない。

### 1.健良・経良

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.339	0.000	1.404	1.237	1.593
性別：男	2.088	0.000	8.072	7.016	9.288
暮らし向き：大変苦しい	-0.207	0.002	0.813	0.714	0.927
家族類型：独居	2.029	0.000	7.609	5.636	10.273
：夫婦のみ	0.331	0.000	1.392	1.237	1.565
孫あり	-0.225	0.008	0.798	0.676	0.943
就業状況：仕事あり	0.442	0.000	1.557	1.377	1.760
要介護認定：受けている	-0.353	0.017	0.702	0.525	0.938
喫煙本数：11～20本	-0.445	0.000	0.641	0.499	0.823
地域ブロック：関東	-0.177	0.033	0.838	0.712	0.985
：中国	0.266	0.014	1.305	1.056	1.613
：南九州	0.225	0.039	1.252	1.012	1.549
定数	0.413	0.000	1.511		

### 2.健良・経悪

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.383	0.001	1.467	1.164	1.848
性別：男	1.096	0.000	2.992	2.304	3.886
暮らし向き：大変苦しい	-0.264	0.018	0.768	0.617	0.955
家族類型：独居	0.985	0.000	2.678	2.048	3.501
孫あり	-0.707	0.001	0.493	0.319	0.761
喫煙本数：21～30本	-0.756	0.052	0.470	0.219	1.005
：31本以上	-1.273	0.034	0.280	0.086	0.907
地域ブロック：近畿	-0.537	0.022	0.584	0.369	0.925
定数	0.676	0.000	1.965		

### 3.健悪・経良

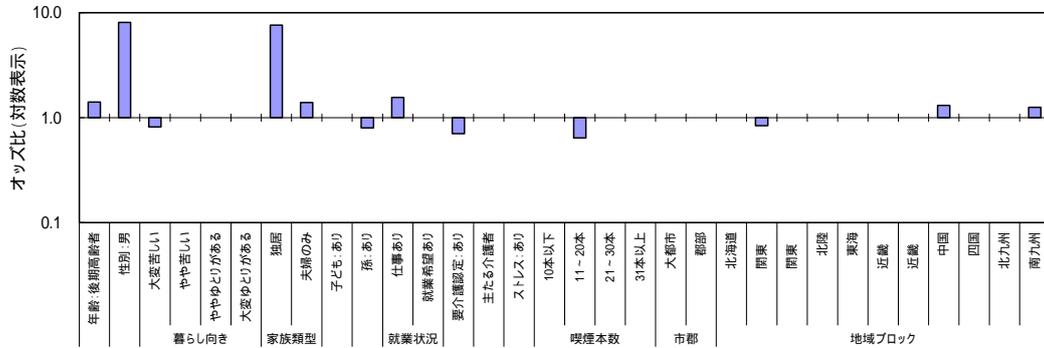
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.393	0.000	1.481	1.220	1.797
性別：男	1.642	0.000	5.167	4.111	6.495
暮らし向き：大変苦しい	-0.226	0.039	0.798	0.644	0.988
家族類型：独居	1.619	0.000	5.051	3.104	8.218
：夫婦のみ	0.456	0.000	1.578	1.269	1.963
孫あり	-0.567	0.000	0.567	0.441	0.729
就業状況：仕事あり	0.319	0.013	1.375	1.070	1.768
家族の介護：主たる担い手	0.692	0.005	1.999	1.230	3.248
ストレス：有	0.267	0.009	1.306	1.070	1.594
地域ブロック：南九州	0.589	0.006	1.801	1.184	2.741
定数	0.376	0.002	1.456		

### 4.健悪・経悪

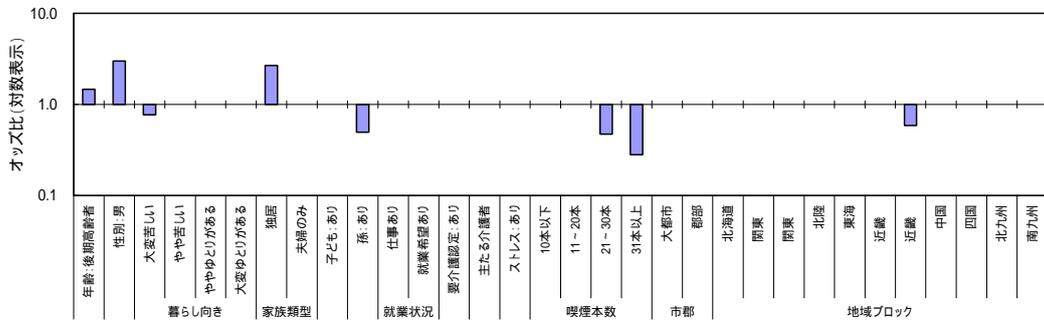
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.831	0.000	2.296	1.663	3.171
性別：男	0.758	0.000	2.135	1.513	3.012
暮らし向き：大変苦しい	-0.395	0.013	0.674	0.493	0.921
家族類型：独居	0.910	0.000	2.486	1.705	3.624
：夫婦のみ	0.586	0.002	1.796	1.233	2.616
喫煙本数：10本以下	-0.998	0.001	0.369	0.201	0.678
地域ブロック：東海	0.662	0.052	1.939	0.994	3.782
定数	0.362	0.041	1.436		

被説明変数: 社会保険料の支払い状況(あり=1、なし=0)

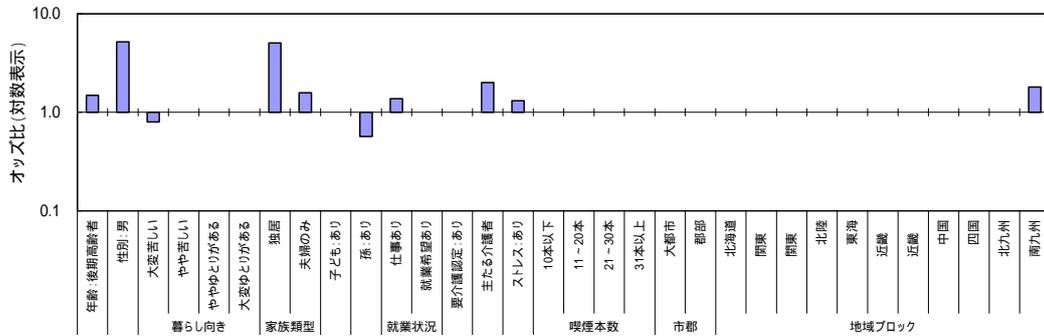
1. 健良・総良



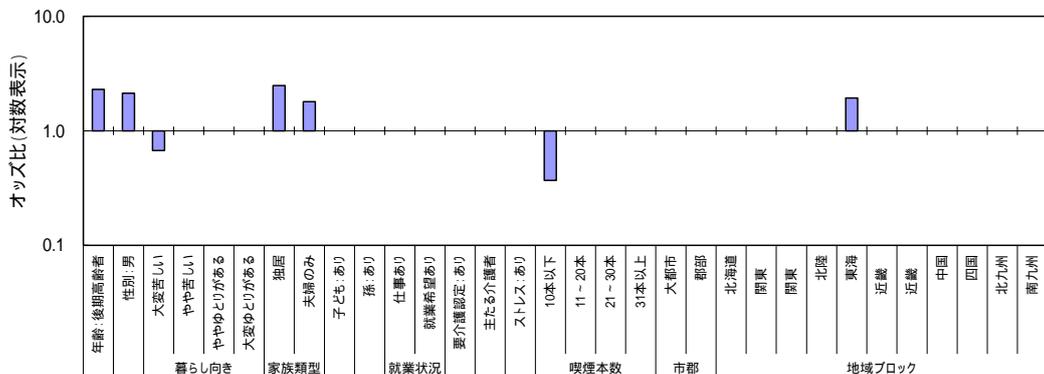
2. 健良・総悪



3. 健悪・総悪



4. 健悪・総健



#### 4) 分析1 - :子どもへの仕送り状況

全サンプルに対する子どもへの仕送り状況の要因分析結果をみると、「年齢：後期高齢者」、「子ども：あり」、「孫：あり」でオッズ比が高い。

一方、家族類型が「独居」、「夫婦のみ」の場合はオッズ比が低い。また、「要介護認定：受けている」でもオッズ比が低い。

地域別に見ると、「関東」ではあまり子どもへの仕送りはされておらず、反対に「北陸」、「北九州」では子どもへの仕送りが多くなっている。

子どもへの仕送り状況(あり=1、なし=0)

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.711	0.000	2.037	1.737	2.388
家族類型：独居	-1.206	0.000	0.299	0.201	0.445
：夫婦のみ	-0.545	0.000	0.580	0.454	0.739
子どもあり	0.429	0.000	1.536	1.255	1.880
孫あり	0.409	0.000	1.505	1.213	1.866
要介護認定：受けている	-0.408	0.007	0.665	0.493	0.897
地域ブロック：関東	-0.588	0.001	0.556	0.397	0.777
：北陸	0.314	0.014	1.369	1.064	1.760
：北九州	0.343	0.004	1.409	1.114	1.783
定数	-3.424	0.000	0.033		

4つのグループ別の分析をみると、何れのグループでも「家族類型：独居」でオッズ比が低く、また、「4.健悪・経悪」以外のグループで「家族類型：夫婦のみ」のオッズ比が低くなっている。

また、「2.健良・経悪」グループでは「郡部」でオッズ比が低いのに対し、「3.健悪・経良」グループでは「大都市」でオッズ比が低いのが特徴的である。

### 1.健良・経良

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.924	0.000	2.520	2.048	3.101
家族類型：独居	-0.823	0.002	0.439	0.262	0.736
：夫婦のみ	-0.324	0.038	0.724	0.533	0.981
子どもあり	0.511	0.000	1.666	1.283	2.165
孫あり	0.373	0.008	1.452	1.104	1.910
就業状況：仕事あり	0.241	0.024	1.272	1.031	1.569
ストレス：有	0.203	0.041	1.224	1.008	1.487
地域ブロック：関東	-0.646	0.001	0.524	0.352	0.780
：北九州	0.366	0.014	1.442	1.078	1.929
定数	-3.717	0.000	0.024		

### 2.健良・経悪

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
家族類型：独居	-1.854	0.003	0.157	0.046	0.537
：夫婦のみ	-1.345	0.008	0.261	0.096	0.706
喫煙本数：10本以下	1.491	0.020	4.440	1.260	15.638
市郡：郡部	-1.883	0.065	0.152	0.021	1.126
定数	-3.477	0.000	0.031		

### 3.健悪・経良

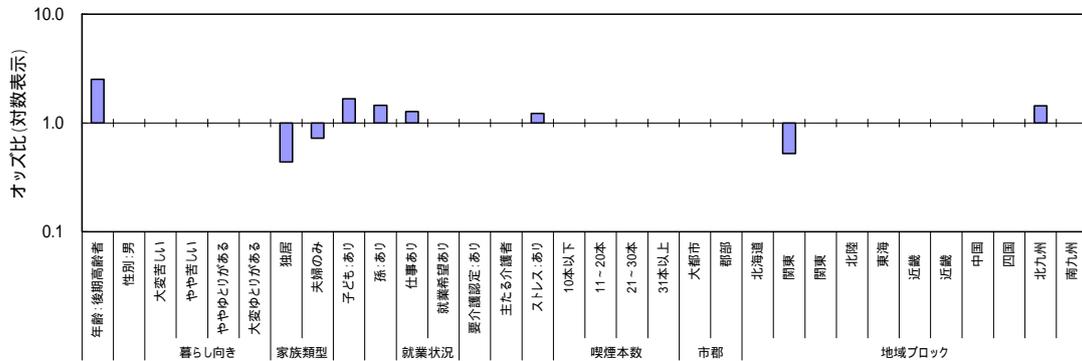
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	0.547	0.000	1.728	1.280	2.331
家族類型：独居	-1.256	0.001	0.285	0.132	0.615
：夫婦のみ	-1.058	0.000	0.347	0.234	0.515
喫煙本数：31本以上	1.300	0.043	3.668	1.041	12.919
市郡：大都市	-0.533	0.047	0.587	0.347	0.992
地域ブロック：北陸	0.542	0.013	1.719	1.124	2.631
定数	-2.803	0.000	0.061		

### 4.健悪・経悪

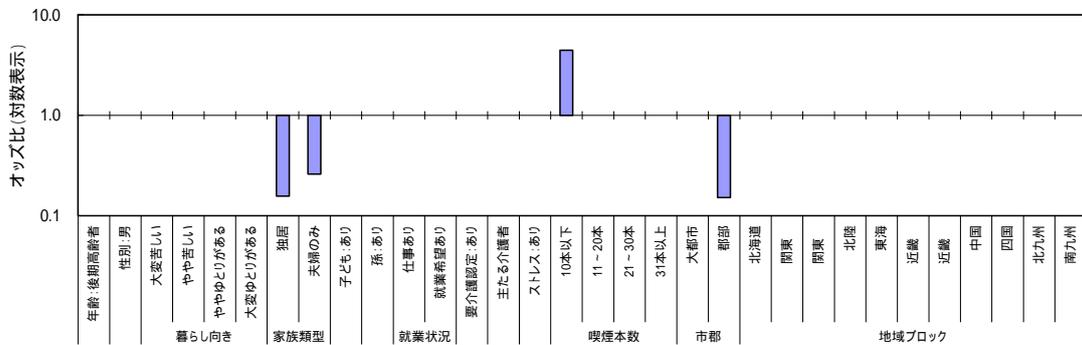
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
家族類型：独居	-1.351	0.029	0.259	0.077	0.869
定数	-3.349	0.000	0.035		

被説明変数:子どもへの仕送り状況(あり=1、なし=0)

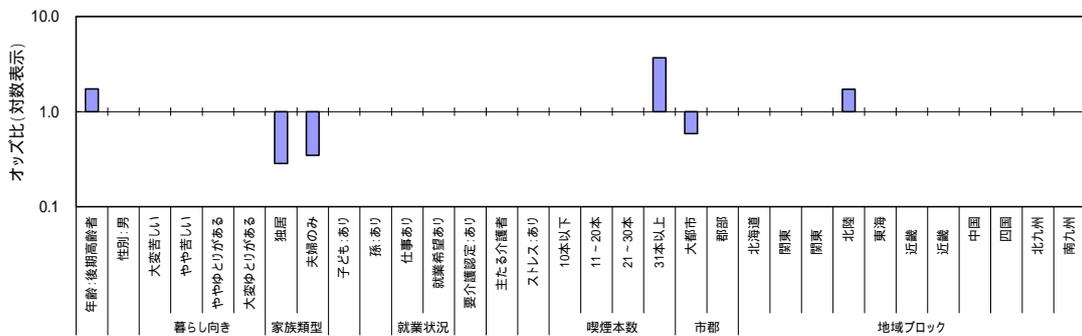
1.健康・裕良



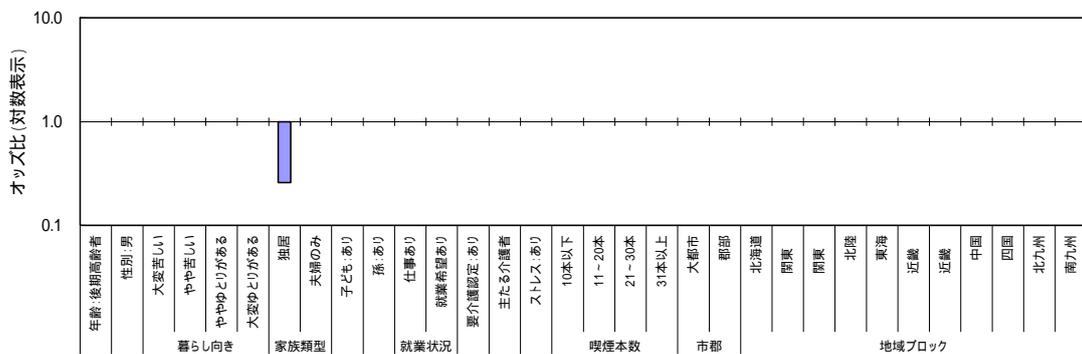
2.健康・裕悪



3.健康・裕良



4.健康・裕悪



## 5) 分析1 - :親への仕送り状況

全サンプルに対する親への仕送り状況の要因分析結果をみると、暮らし向きで「ややゆとりがある」、就業状況で「仕事あり」と「就業希望あり」、要介護認定で「受けている」、ストレス「あり」でオッズ比が高い。

一方、「年齢：後期高齢者」、家族類型で「独居」と「夫婦のみ」でオッズ比が低くなっている。

ただし、親への仕送り状況が「あり」のサンプル数が極めて少なく、あくまでも参考情報とすべきである。

親への仕送り状況(あり=1、なし=0)

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.071	0.000	0.343	0.232	0.505
暮らし向き：ややゆとりがある	0.592	0.021	1.807	1.092	2.990
家族類型：独居	-1.096	0.000	0.334	0.189	0.591
：夫婦のみ	-0.598	0.000	0.550	0.411	0.735
就業状況：仕事あり	0.494	0.001	1.639	1.223	2.196
：就業希望あり	0.529	0.010	1.697	1.134	2.539
要介護認定：受けている	0.656	0.018	1.927	1.120	3.313
ストレス：有	0.544	0.000	1.723	1.330	2.233
喫煙本数：11～20本	0.424	0.043	1.528	1.014	2.303
市郡：大都市	-0.442	0.032	0.643	0.429	0.963
地域ブロック：近畿	-0.908	0.046	0.403	0.165	0.984
定数	-4.287	0.000	0.014		

4つのグループ別の分析をみると、「2.健良・経悪」以外のグループでは、「年齢：後期高齢者」のオッズ比が低い。

また、「1.健良・経良」、「2.健良・経悪」グループでは、「就業状況：仕事あり」のオッズ比が有意に高くなっているが、特に「2.健良・経悪」グループのオッズ比が高く、経済状況の悪い場合は、仕事の有無が親への仕送り状況に与える影響は大きくなっている。

### 1.健良・経良

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.067	0.000	0.344	0.208	0.571
暮らし向き：ややゆとりがある	0.580	0.035	1.787	1.041	3.067
就業状況：仕事あり	0.467	0.004	1.595	1.159	2.194
要介護認定：受けている	1.242	0.003	3.462	1.525	7.857
ストレス：有	0.396	0.012	1.486	1.090	2.026
定数	-4.419	0.000	0.012		

### 2.健良・経悪

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
家族類型：独居	-16.981	0.991	0.000	0.000	.
：夫婦のみ	-1.408	0.026	0.245	0.071	0.846
就業状況：仕事あり	1.026	0.028	2.790	1.119	6.955
ストレス：有	2.133	0.001	8.437	2.446	29.107
定数	-5.632	0.000	0.004		

### 3.健悪・経良

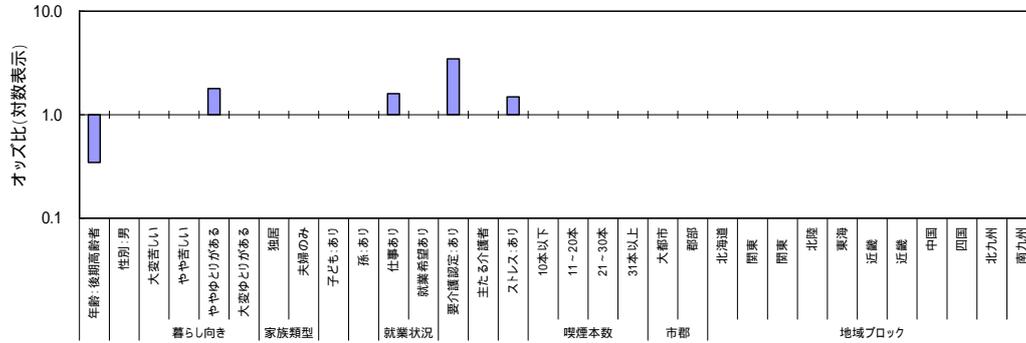
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-0.740	0.020	0.477	0.256	0.891
家族類型：夫婦のみ	-1.309	0.003	0.270	0.114	0.641
就業状況：就業希望あり	0.792	0.025	2.207	1.102	4.418
ストレス：有	0.968	0.028	2.632	1.110	6.238
地域ブロック：北陸	0.965	0.011	2.624	1.246	5.528
定数	-4.737	0.000	0.009		

### 4.健悪・経悪

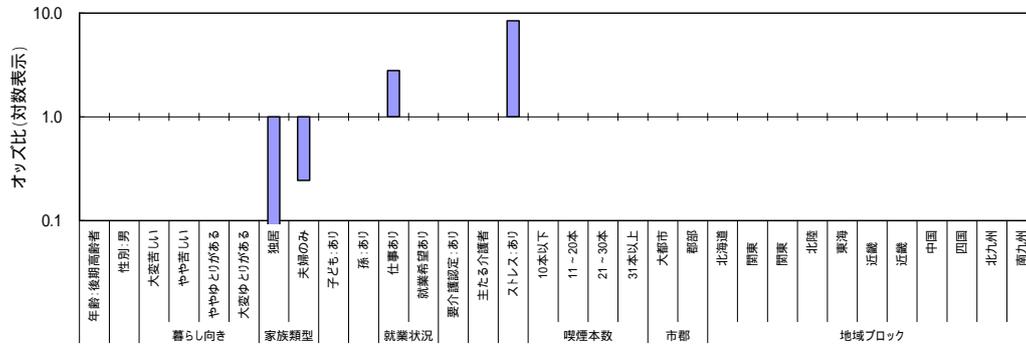
	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-17.174	0.992	0.000	0.000	.
地域ブロック：北海道	2.362	0.005	10.615	2.008	56.122
定数	-4.234	0.000	0.014		

被説明変数:親への仕送り状況(あり=1、なし=0)

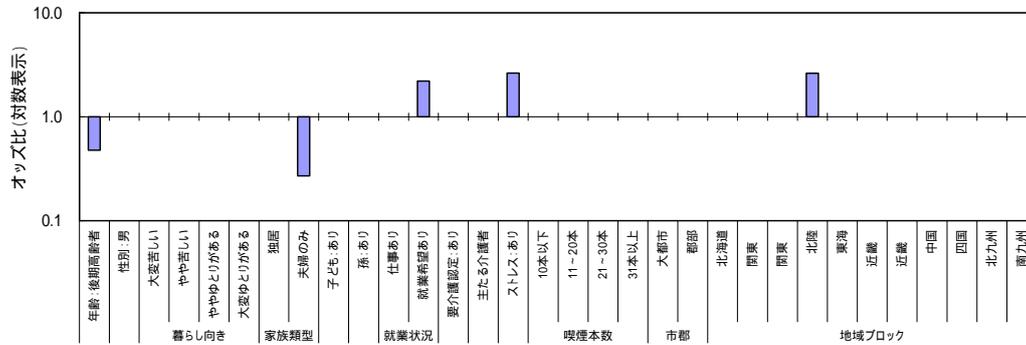
1.健康・経良



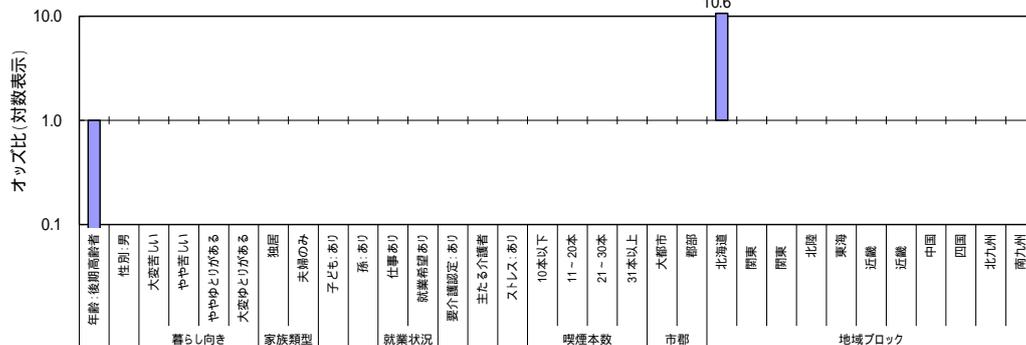
2.健康・経悪



3.健康・経中



4.健康・経悪



## (2)分析2:健康状態および経済状態に関する要因分析

これまでは、4つのグループごとに要因分析を行ったが、ここでは参考分析として、全サンプルを対象とし、健康状態あるいは経済状態の良否がどのような要因に影響されているかを検討した。健康状態あるいは経済状態を表す被説明変数はカテゴリカルデータであるので、ロジスティック回帰分析により要因分析を行った。

### 1) 主観的健康状態

主観的健康状態

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-0.577	0.000	0.562	0.518	0.610
性別：男	-0.149	0.000	0.861	0.797	0.931
暮らし向き：大変苦しい	-0.324	0.000	0.723	0.657	0.795
：やや苦しい	-0.211	0.000	0.809	0.742	0.883
就業状況：仕事あり	0.515	0.000	1.674	1.528	1.834
要介護認定：受けている	-1.403	0.000	0.246	0.213	0.284
ストレス：有	-1.606	0.000	0.201	0.186	0.217
喫煙本数：21～30本	-0.311	0.012	0.733	0.575	0.934
市郡：郡部	-0.107	0.040	0.899	0.812	0.995
地域ブロック：関東	0.152	0.024	1.164	1.021	1.327
：中国	-0.178	0.009	0.837	0.732	0.956
：四国	-0.246	0.004	0.782	0.661	0.924
：北九州	-0.240	0.000	0.787	0.693	0.893
定数	2.363	0.000	10.625		

偏相関係数の符号をみると、「就業状況：仕事あり」、「地域ブロック：関東」が正になっている。特に「就業状況：仕事あり」はオッズ比も比較的大きく、仕事の有無と主観的健康状態とは密接な関係があると言える。また、同様に関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）で健康状態が良い傾向にあることがうかがえる。

一方、「年齢：後期高齢者」では偏回帰係数の符号が負であり、参照値とした前期高齢者に比べて、後期高齢者は健康状態が悪い傾向にあると言える。

また、「要介護認定：受けている」も偏回帰係数の符号が負で、オッズ比も小さく、参照値とした「要介護認定：受けていない（手助けや見守りを必要としていないを含む）」に比べて健康状態が悪い。

「ストレス：有」についても同様で、ストレスがない場合に比べて健康状態が悪く、ストレスの有無が健康状態に影響を与えていることが分かる。

## 2) 客観的経済状態

### 客観的経済状態

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-0.319	0.000	0.727	0.663	0.797
性別：男	0.419	0.000	1.520	1.388	1.666
家族類型：独居	-1.043	0.000	0.352	0.308	0.403
：夫婦のみ	0.196	0.002	1.216	1.076	1.375
子どもあり	0.651	0.000	1.917	1.680	2.187
孫あり	0.550	0.000	1.734	1.438	2.090
就業状況：仕事あり	0.253	0.000	1.287	1.159	1.430
：就業希望あり	-0.317	0.000	0.728	0.638	0.832
ストレス：有	-0.220	0.000	0.802	0.738	0.872
喫煙本数：10本以下	-0.209	0.049	0.812	0.659	0.999
：11～20本	-0.227	0.009	0.797	0.671	0.946
市郡：郡部	-0.306	0.000	0.737	0.661	0.820
地域ブロック：関東	0.580	0.000	1.786	1.514	2.107
：関東	0.261	0.000	1.298	1.124	1.500
：北陸	0.580	0.000	1.786	1.462	2.181
：東海	0.583	0.000	1.791	1.531	2.095
：近畿	0.169	0.036	1.184	1.011	1.386
：中国	0.204	0.012	1.226	1.046	1.438
：四国	-0.327	0.000	0.721	0.606	0.859
：南九州	-0.370	0.000	0.690	0.598	0.797
定数	1.423	0.000	4.148		

年齢では「後期高齢者」は偏回帰係数の符号が負となっており、前期高齢者に比べて後期高齢者は経済状態が悪い傾向にある。また、性別で見ると「男」の偏回帰係数は正となっており男性の経済状態が良いことがうかがえる。

家族類型では「独居」で経済状態が悪い傾向にあり、これは「子どもあり」、「孫あり」で経済状態が良い傾向にあることの反証となっている。

就業状況では、当然ながら「仕事あり」の経済状態が良い傾向にある。

一方、地理的条件に関しては、「郡部」で経済状態が悪い。地域ブロックで見ると、「関東」、「北陸」、「東海」で経済状態が良く、一方、「四国」、「南九州」で経済状態が悪い。

## (2)分析3:精神的健康状態に関する要因分析

精神的健康状態の被説明変数は0～24点の数量データであるので、重回帰分析により要因分析を行った。分析にあたってはステップワイズ法を用いたため、有意と判断された説明変数についてのみ、偏回帰係数（B）や標準化偏回帰係数が算出される。なお、偏回帰係数の値は、説明変数の単位や変動の大きさによって、その大きさが左右される。そこで、説明変数の変動の大きさによってコントロールしたものが標準化偏回帰係数である。

分析結果の解釈としては、標準化偏回帰係数の符号により、当該説明変数の被説明変数に対する関係の正負を判断し、標準化偏回帰係数の値の絶対値の大きさによって、その影響度を把握することができる。

精神的健康状態

	偏回帰係数 B	標準化 偏回帰係数	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
				下限	上限
年齢	.011	.022	.012	.002	.019
性別：男	-.204	-.025	.002	-.333	-.076
暮らし向き	-.348	-.075	.000	-.417	-.279
子どもあり	.220	.025	.001	.089	.351
就業状況：仕事あり	-.462	-.053	.000	-.602	-.322
要介護認定：受けている	1.985	.118	.000	1.720	2.249
ストレス：あり	3.593	.436	.000	3.470	3.716
1日の喫煙本数	.184	.035	.000	.103	.265
地域ブロック：南九州	-.266	-.018	.016	-.481	-.050
(定数)	1.558		.000	.929	2.186

性別では「男」は偏回帰係数の符号が負であり、精神的健康状態が良い傾向にある。

また、暮らし向きが悪い方が、精神的健康状態も悪くなる傾向にあり、主観的な経済状態と精神的健康状態には密接な関係がうかがえる。

一方、「要介護認定：受けている」の偏回帰係数の符号は正であり、参照値とした「要介護認定：受けていない（手助けや見守りを必要としていないを含む）」に比べ、精神的健康状態が悪くなる傾向にある。

就業状況を見ると、「仕事あり」の偏回帰係数の符号が負となっており、就業の有無が精神的な健康状態に影響を与えていることがわかる。

### (3)分析4:就業状況等に関する要因分析

仕事の有無、今後の就業希望に関する被説明変数はカテゴリカルデータであるので、ロジスティック回帰分析により要因分析を行った。一方、就業日数、就業時間については実日数、実時間を被説明変数とし重回帰分析により要因分析を行った。

#### 分析4 -

##### 1) 仕事の有無

仕事の有無

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.443	.000	.236	.216	.258
性別：男	.980	.000	2.664	2.482	2.859
暮らし向き：ややゆとりがある	.555	.000	1.742	1.483	2.048
：大変ゆとりがある	1.611	.000	5.010	2.793	8.985
家族類型：独居	-.431	.000	.650	.575	.734
：夫婦のみ	-.394	.000	.674	.625	.727
要介護認定：受けている	-2.140	.000	.118	.082	.169
家族の介護：主たる担い手である	-.369	.000	.691	.576	.830
健康状態：よい	.489	.000	1.631	1.487	1.789
経済状態：よい	.235	.000	1.265	1.142	1.403
ストレス：あり	.176	.000	1.193	1.107	1.285
市郡：郡部	.202	.000	1.224	1.113	1.347
地域ブロック：関東	.334	.000	1.397	1.250	1.560
：北陸	.179	.013	1.196	1.039	1.376
：東海	.293	.000	1.340	1.200	1.496
：中国	.252	.000	1.286	1.127	1.468
：四国	.358	.000	1.431	1.215	1.685
：南九州	.191	.005	1.211	1.059	1.385
定数	-1.454	.000	.234		

仕事の有無と年齢との関係を見ると「後期高齢者」は「前期高齢者」に比べて仕事のない場合が多い。また、性別では男性の方が仕事のある傾向にある。

家族類型では、「独居」、「夫婦のみ」は、参照値である「その他」に比べて仕事のない傾向にある。

また、「要介護認定：受けている」では、「要介護認定：受けていない（手助けや見守りを必要としていないを含む）」場合に比べて仕事のない傾向があり、本人の健康状態等により仕事の有無が影響を受けていることがうかがえる。

一方、「家族の介護：主たる担い手である」も、参照値である「家族の介護：主たる担い手である（同一世帯に手助けや見守りを必要とする家族がいないを含む）」場合に比べて仕事がない傾向にあり、介護に従事することは、仕事の有無と関連があることがわかる。

地理的条件をみると、「郡部」では比較的工作のある傾向にある。

## 2) 今後の就業希望

今後の就業希望

	偏回帰係数 B	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
年齢：後期高齢者	-1.119	.000	.327	.289	.369
性別：男	.609	.000	1.839	1.652	2.047
暮らし向き：大変苦しい	.749	.000	2.115	1.846	2.424
：やや苦しい	.641	.000	1.899	1.674	2.154
家族類型：独居	.209	.006	1.233	1.061	1.432
孫あり	-.226	.042	.798	.641	.992
家族の介護：主たる担い手である	.356	.003	1.428	1.131	1.803
ストレス：あり	.434	.000	1.543	1.387	1.717
地域ブロック：北海道	.282	.036	1.325	1.018	1.725
：中国	-.311	.003	.732	.594	.903
：北九州	-.257	.008	.773	.639	.936
定数	-2.284	.000	.102		

仕事のないサンプルを対象とした、今後の就業希望の要因をみると、「性別：男」でオッズ比が高く、仕事のない男性の就業希望はたいへん高くなっている。また、年齢では「後期高齢者」の就業希望は少なくなっている。

暮らし向きでは、「大変苦しい」、「やや苦しい」でオッズ比が高く、就業を希望する傾向が多くなっている。

また、「家族の介護：主たる担い手である」では就業希望が高く、介護に従事することが、就労の阻害要因となっていると推察される。

ストレス「あり」の場合は、就業希望が高く、就労意欲があるにもかかわらず就業できないことがストレスを引き起こしていることがうかがえる。

地域別にみると「北海道」で就労希望が高く、一方、「中国」、「北九州」は低い。

## 分析4 -

### 1) 就業日数

就業日数

	偏回帰係数 B	標準化 偏回帰係数	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
				下限	上限
性別：男	-.104	-.031	.023	-.194	-.014
暮らし向き	-.049	-.027	.043	-.097	-.001
家族類型：独居	-.476	-.083	.000	-.634	-.318
：夫婦のみ	-.247	-.073	.000	-.340	-.155
要介護認定：受けている	-1.671	-.069	.000	-2.314	-1.029
市群	.039	.031	.027	.005	.074
地域ブロック：関東	-.333	-.063	.000	-.481	-.185
：東海	-.287	-.061	.000	-.416	-.158
：近畿	-.499	-.060	.000	-.720	-.278
：南九州	.240	.040	.004	.078	.402
(定数)	5.216		.000	5.039	5.394

就業日数と性別の関係をみると「男」の方が就業日数が少ない。

また、暮らし向きが悪いほど就業日数が多くなる傾向にあり、主観的な経済状態と就業日数との関係がうかがえる。

家族類型では「独居」、「夫婦のみ」で就業日数が少ない。

「要介護認定：受けている」では就業日数が少なく、本人の健康状態等が就業日数に影響を与えていることがうかがえる。一方、「家族の介護：主たる担い手である」も就業日数が少なく、介護に従事することが就業日数を少なくする要因となっていると考えられる。

地理的条件をみると、大都市から郡部へと在住地の規模が小さくなるにつれて就業日数が増える傾向にある。

地域別では、「関東」、「東海」、「近畿」で就業日数が少なく、一方「南九州」で就業日数が多くなっている。

## 2) 就業時間

### 就業時間

	偏回帰係数 B	標準化 偏回帰係数	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
				下限	上限
年齢	-0.464	-0.155	0.000	-0.544	-0.383
性別：男	4.125	0.109	0.000	3.108	5.142
暮らし向き	-0.586	-0.029	0.034	-1.128	-0.043
家族類型：独居	-3.003	-0.046	0.001	-4.799	-1.207
：夫婦のみ	-2.365	-0.062	0.000	-3.415	-1.316
要介護認定：受けている	-11.363	-0.043	0.002	-18.418	-4.309
市群	0.666	0.047	0.001	0.282	1.051
地域ブロック：近畿	2.013	0.030	0.031	0.189	3.838
(定数)	63.763		0.000	58.153	69.374

就業時間と年齢は負の関係にあり、年齢が高くなるにつれて就業時間は短くなる傾向にある。一方、性別では「男」の就業時間が長くなっており、3)の就業日数とは逆の傾向となっている。すなわち、女性の方が1日あたりの就業時間が短く、パート・アルバイト等の短時間の労働に携わっていると推察される。

「暮らし向き」、「要介護認定：受けている」、「家族類型」、「市群」については、3)の就業日数とほぼ同様の傾向を示している。